



# 森のなかま

2016年11月号

NO. 103 (継続248号)

事務所が移転しています!!

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 久保 重明

〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

森林部会 平成28年度『除伐・里山整備研修会』が開催されました

日時：9月25日(日) 10:15~15:10 晴れ時々曇り場所：伊勢原市三ノ宮所在「ひじりの森」(エリアA)

## 《 森林部会 斉藤 夏葉 13期 》

雨の多かった9月だったが、当日はお天気に恵まれ「ひじりの森」で除伐作業の指導方法の習得と実践の研修を行った。

伊勢原駅 9:30 発のバスに乗り、バス停から徒歩でひじりの森へ移動。登山道脇広場へ到着するころには汗だくになるくらい蒸し暑い。身支度、オリエンテーション、集合写真撮影に続き、10:30から講義。講義では除伐とは何か、ひじりの森における目標林型と除伐方法の説明、県民参加の森林づくりおよびネットワーク活動でのインストラクターとしての指導ポイント、安全への配慮などについて説明があった。各現場での整備方法に沿った指導ができるよう、インストラクター自身が目標林型と当日の除伐対象木を確認、理解し、参加者へ解説することが求められる。

11:00 から全員で体操を行った後、各班に分かれて午前の作業実習。昼休みにはこれまでの除伐の経験で気がついたことやヒヤリハットなどを各自用紙へ記入。

午後は12:30から2時間程班毎での実習。参加者はインストラクター役を交代で務め、除伐作業における指導方法と基本的技術の両方を会得、再確認した。作業後の現場は明るく見通しが利くようになり、参加者の遣り甲斐の声も印象的であった。

作業終了後は意見交換と講評。ここでは部会長より、昼休みに各自が記入したシートの内容についてのまとめの発表があった。

また講師より、現場でどこから手を付けるかの判断、どこで鉋・鋸を使うのか受け口の要否、作業効率を考えての人員の振り分けの大切さ、なぜ伐根をできるだけ地際で切るか、などについて話があった。

15:10には解散、徒歩でバス停へ移動し本日の研修会は無事終了した。

今回の研修を通してインストラクターとしての指導方法や安全管理について、また実際の除伐作業の方法、注意点などを再確認できた。各自のスキルアップにつながる研修会であった。

(次ページに続く)



講義風景



班に分かれて現場へ移動

本日の「お邪魔虫の木」は  
細いアラカシとアオキ

鉈(ナタ)を使って杭を作る



ロープと掛矢(カケヤ)を使って杭を打ち込む



チームワークで効率的に作業



作業終盤、光が差し込むようになった



意見交換・講評、お疲れ様でした



講師： 足立氏④、佐藤氏⑤、富樫氏⑥、有坂氏⑧、松永氏⑪ 幹事： 足立④、滝澤⑤、斉藤⑬  
 参加： 菊地①、野牛⑧、水津⑨、辻村⑨、大澤⑩、宮下⑩、安井⑫、宇田川⑬、江頭⑬、  
 江上⑬、北村⑬、武井⑬、岩田⑭、木村⑭、國弘⑭、立花⑭、谷⑭、西岡⑭、水野⑭



森林文化部会 『柿渋塗り体験』  
 日時： 9月18日(日) 場所： やどりき水源林休憩棟  
 参加者 12名(会員)

《 記&写真：  
 森林文化部会 井出 恒夫 1期 》

過去、森林文化部会では、紙すき、草木染め、炭焼きなど、先人の知恵を学ぶ体験教室を実施してきました。そして、2012年に柿渋液作り、2015年に鎌倉彫体験を行いました。今年はそれら作品を持ち寄り、柿渋塗り体験を行いました。

柿渋液は4年間でかなり熟成しました。しかし、製作時の水の配合量や、貯蔵する環境でかなり熟成度合に違いがあります。今回は、自作の柿渋液と市販の柿渋液を配合して塗布液にしました。鎌倉彫りや、竹の容器、布バッグなどに、乾燥を交え数回塗布して完成。

柿渋は時間がたつに従い独特の風味が増して行きます。作品の今後の成長が楽しみです。

鎌倉彫等の作品に柿渋塗り

